



町政を問う

内には

自活する行政を

町内には

人がよく動く町

づくりを願う

質問者



澤田 登代一 議員



シルバー人材センターの活動風景

問

シルバー人材センターへの支援について

平成22年には、3人に1人が60才以上の方となり高齢化が進みます。いろいろな経験をし知識も技術もあり、何かをしたい意欲のある人材を、それを必要とする個人・企業で役立たせるシルバー人材センターとしてのシステムづくりを、行政の立場で「テコ入れ」、高齢者が生きがいを持って安心し、又安定した活動の場をつくっていく支援を求めます。

答

運営の状況を

見ながら対応

答弁 白石町長

シルバー人材センターの目的は「自主、自立、共働、共助」を基本理念として設立されたもので、平成15年4月より、福祉センターに仮の事務所を置いて活動しており、会員、活動量も増えているようです。町としても具体的な支援の要望があれば対応したい。又、委託できるものはお願いしています。今後もセンターの運営状況を見ながら対応していきます。

問

世界に目が向く子供の教育を

今や経済の動向は世界各国の事情で左右される。我が町内の子供達が世界各国の動きに、教育・クラブ活動等を通じて関心や興味を持つ機会づくりに、何を実施し、又どのようなことを検討、計画していますか。

答

国際社会にふさわしい人材を育成していく

答弁 赤星教育長

学校ごとに「テーマ」を決めて特色ある教育を展開しています。学習の時間では、世界に目を向けて環境問題を考えたり、輸出入に関する貿易摩擦の実情と、解決方法について学習をしています。クラブ活動では講師を招き文化・言葉・生活上のマナー等を理解するなど多彩な取り組みをしています。今後も、社会教育の立場でもその方向で進めます。



オーストラリアの子供達との交流